

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 平成30年4月26日

グループ名	多摩社会科勉強会	フリガナ 代表者氏名	タカオカ 高岡 マミ
学校名 (代表者)	府中市立府中第三中学校	電話番号	042-361-9303
研究テーマ	「追究する力を育てる社会科学習」		
研究期間	平成30年7月1日 から 平成31年3月31日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p>指導案やワークシート、定期考査問題を基に実践報告をし、研究協議において、意見交換をすることにより、「明日の授業」に生かす、より実践的な指導法工夫に結びつけることができた。特に、各地区での公開授業や研究授業を引き受ける若手教員が増えてきたことにより、事前の指導案検討や、事後の反省の場にもなり、より高い指導力の向上につながった。</p> <p>また、毎回、東京学芸大学講師を顧問の先生とし、指導を仰いでおり、より専門的なアドバイスをいただくことできている。都中社研研究部員をはじめ、指導教諭等から、毎回「発表報告」「先行事例」を発表してもらうことにより、若手教員へ広い視野で教材研究をする指導の場となっている。</p> <p>さらに、東京都中学校社会科教育研究会と連携を図った。</p> <p>(1) 年3回研究協議会を実施した。</p> <p>(2) 日々の授業実践を積み重ねた結果を研究協議会で一人一人発表し、協議を重ね、自分の指導法を振り返る機会とした。</p> <p>(3) 特に「単元を貫く課題」について、年間を通して、研究協議を重ねた。第3回の研究会では、「単元を貫く課題」について、グループワークをし、新学習指導要領を踏まえた新しい単元構成の提案を行った。</p> <p>(4) 3年間を見通した指導計画を意識し、見方・考え方を働かせ、目標を明確にした地歴融合の授業や、公民的分野を念頭にした単元指導計画の検討ができた。</p> <p>(5) 特に多摩地域の若手教員育成のため、東京都中学校社会科教育研究会と連携を図り、夏季研修会、示範授業等へ参加した。また、東京都研究員研究発表会等へも参加した。さらに、毎回、東京都中学校社会科教育研究会の研究部委員を招聘し、実践報告を行い、先進的な指導方法を学んだ。</p>		
その他 特記事項			

「追究する力を育てる社会科学習」

【研究の内容】

第1回 7月21日(土)

(1) 定期考査問題を持ち寄り、協議した。協議の中で、以下の提案、まとめをした。

・雨温図の問題について

→雨温図を書かせる作業が何より大切。

→1年生の時は、おおよその形がわかればよい。また、典型的な気候だけわかればよいのではないか。

→南半球の気候は、感覚的にわからせることが大事。

・年表問題について

→並べ替えも大切だが、時代の大観ができる問題の方が大切。

・年表並べ替え問題について(生徒の正答率が低い理由)

→因果関係が抑えられなければ解けないから

→時代の大きな流れがとらえられているかどうか。そこが図れる問題にしなければならない。

→事項を並べ替えするのではなく、転換点を問題として問うのが良い問題

・資料読み取り問題について

→いくつかの資料を組み合わせて問題は作成したい。

→いくつかの解がある問題が作成できれば良いが、なかなか難しい

・記述問題について

→評価基準をはっきり示せるのは、テストで出題するメリット

→単元が終わったら、持ち込みOKで、記述問題をやらせるのも1つの方法

→都立入試問題を例に考えるのも1つの方法。都立入試は、ポイントがあてれば良い。

→模範解答を生徒に示すことで、基準が明らかになる。

・応用問題について

→読み取り資料のすべてを授業で提示するのではなく、授業で提示していない資料をテストに出して、時代背景を問う問題は、どうか。

→教えていないことを問うてはいけない。授業で指導したことをテストで問うのが原則。

→授業で得た知識を基に、見方・考え方を使って、問題を解くのが良い。

→知っているだけでは解けない問題をどのように作成していくか。

→授業が終わったら、すぐにメモで良いから問題を考えてみるのも1つの方法。

・記述問題について

→評価基準をはっきり示せるのは、テストで出題するメリット

→単元が終わったら、持ち込みOKで、記述問題をやらせるのも1つの方法

→都立入試問題を例に考えるのも1つの方法。都立入試は、ポイントがあてれば良い。

→模範解答を生徒に示すことで、基準が明らかになる。

<協議から>

・到達度をテスト以外でどのように図っていくか

→単元末テストの実施

→通過率で検証していくのも1つの方法

→自分の授業を振りかえる1つの手立てとすることが大切

・授業での問い

- 既習事項や経験で答える
- 実際の授業の中では、生徒同士や教員との人間関係で答えられるものもある。それはそれでよいのではないか・
- 指導案に示した「発問」のほかに、生徒の発言から次の「補助発問」をいかにできるかは、指導力の差となる。

・歴史問題に、地図をからめた問題をぜひ作成する

・知識として、必ず覚えさせた方がよいというものはあるのかどうか

- 受験に出るからなのか
- 時間軸、空間軸でとらえることが大切
- そのことで大きく変わる年号は、覚えさせる
- 世紀は、必ず最初に覚えさせる。時代の流れを大きくとらえさせる、また世界とのつながりを知るために必要である
- 時差は、新学習指導要領では1年の最初に学習する。小学校での積み重ねが必要になっていくので、小中との連携が大切になってくる。

・テスト作成、採点時のヒント

- ①雨温図は、理科年表をエクセルに落として作成
- ②間違った漢字で書いた解答をどのように扱うか
 - 国語の問題でないので、どこまで厳密にすべきか
 - 漢字でなければならないあないという基準をどのように定めるか。例えば「清」と「秦」は違う。
 - 今後は、特別支援教育の視点で、社会科を考える必要もあるのではないか

(2) 発表報告として、以下の実践報告がされた。

(i) 「歴史地図を活用して日本の歴史を世界的・地理的な視点から俯瞰する」

- ・世界的な視点から日本の歴史をとられる学習には、グローバルな見方が必要である。さらに、社会科事象は、自然的要因に大きく影響を受けるため、地理的な視点も大切である。
- ・「地歴融合」の重要性。世界的・地理的に俯瞰する視点は、社会を見る視点につながる。

(3) 先進事例として「授業における『目標』の設定について」紹介があり、協議した。

①目標の設定スタイルについて

- ・観点型「〇〇について考えよう」
- ・疑問形「なぜ丸々が起こったのか」→本時で追究すべき課題が明らかになる
- ・方法型「〇〇についてグループで討論しよう」

②なぜ目標設定が必要なのか

- ・目標は、生徒に授業の方向性を指し示すだけでなく、授業者自身にも授業の方向性を指し示すもの
- ・目標を構造的に考えることで、授業や単元を構造的に考えることができる。目標設定は、授業構成であり、単元構成である。

(4) 講師の先生より、2点について指導があった。

① 社会的事象を読み取ることと、その背景を考えるのが、社会科

→ 資料には、意味がある。「この現象はなぜ起きるのか」「どのような影響があるのか」等を考えさせることが、大切である。

→ 「事実の読み取り」→ 「背景を考えさせる」という流れ

→ テストには、発達段階に応じた資料の提示や発問の工夫が考えられる。例えば

1年：授業で使った資料をそのまま出す

3年：授業以外のことを出す

② そもそも定期テストとはどのような意味をもつものか

→ 単元末テストなのか。評価資料を集めるためのものか

第2回 12月21日(土)

(1) 指導案をもちより、協議した。協議の中で、以下の提案、まとめをした。

①「単元を貫く課題」の設定について

* 段階をふむ

- ・ 1単位時間ごとに、まとめをさせて、その総まとめとして「単元を貫く課題」の解決にあたれると良い。
- ・ 価値判断を求める「単元を貫く課題」の場合は、感情論で解決させない工夫が必要。そのために、段階的に考えさせるのが良いのではないか。

* 思考を促す指導法の工夫

- ・ 新たに得た知識を活動させることにより、思考を促す工夫が必要である。思考ツールとして、ランキングやマトリックスなどを活用するのも1つの方法。

* 教え込む場面と考えさせる場面の吟味

- ・ 知識を教える時間とグループで考えさせる時間のメリハリを単元内で工夫する。

* 多様な立場の設定

- ・ 多様な立場を想定した課題設定は、多面的・多角的に考えさせるために有効である。

例) 「南アメリカ州の環境問題について考える」

→ 先住民、開発農家、大統領、工場主、環境保護論者等の立場に分かれて考えさせる。

* 身近な例をあげての課題設定

- ・ 身近な事例をあげて考えることは、考えるきっかけとなる。特に、対立する立場を具体的に挙げると、生徒は意欲的に考える。

例) 「市の駐輪スポットの廃止について考える」

→ 住民と利用者の立場で考えさせる → 直接請求権へ

* 課題設定の主語は誰かを明確にする

- ・ 課題を設定するときに、「誰が主語なのか」を考えて設定すると良い。

例) 「日本人のあなたは、熱帯林伐採についてどのようにすべきだと考えるか」

* 地域人材の活用

- ・ 授業の中に、地域人材を取り入れると、社会参画意識が高まる。

例) 地方自治の授業は、地理の授業でやったフィールドワークを活かす。

例) 再開発の計画について、地域の人にインタビュー

例) 中学生の立場で考えたことを、市役所等へ提案

②価値判断をもとめる授業について(裁判員制度の授業を通して)

- * ロールプレイなどを取り入れると身近に考えられる
- * 中学生の段階で国民の司法制度について、どこまで考えさせるか。
- * 学習指導要領の内容を踏まえているか
 - * なぜその仕組みがあるのかを、授業を通して考えさせることが大切。そして得た概念を他の単元で活用できるようにする。

③地理の単元指導計画のつくり方

- * 地域的特色をとらえるのが地理の授業
- * 概念的知識をキーワードに発問を考える。
例) 中国:「急激な経済成長」
- * 知識を教えるときに、「光と影」に着目させ、考えるきっかけとする。
- * 年間指導計画の中で、諸地域の順番については工夫が必要

(2) 発表報告として、以下の実践報告がされた。

- (i) 夏季休業中、自分で行った旅行について、どのように授業で活用するか
- ・ 映像の活用
 - ・ 地図は必ず活用する
 - ・ 既習事項を想起させながら、発問を組み立て、復習させる
 - ・ 自分が生活している場所との比較をさせることが大切
 - ・ 歴史的背景についても教え、なぜそうなっているのかを考えさせる。
 - ・ 自分の住んでいる場所との優劣を感じさせるのではなく、よりよい社会を築いていくために、自分なりに考えさせるきっかけとなるような授業をする。
 - ・ 社会的な見方・考え方を教師自身が働かせて、旅行へ行き、単なる名所・旧跡の案内ではない授業をすることが、生徒の公民的資質・能力を養うきっかけとなる。

(ii) 「アフリカ州」の指導案について

- ・ 「アフリカ州のより良い未来について考えよう」を単元の最後に考えさせた。
- 例) 「持続可能な社会をつくるために、アフリカ州のアピールポイントを活かし、どのような開発を行ったら良いか」
- ・ 人権教育の視点で、アフリカ州の歴史にさらなる疑問を持たせた。
- 例) 調べ学習として、アフリカ州のたどってきた歴史を調べ、発表する。

(3) 先進事例として、「SDGs をナビにして」を教材にした模範授業の紹介があった。

- ・ ユニセフより、全国の中学校の3年生徒へ配布済。
- ・ 公民の「D 私たちと国際社会の諸課題(2)」で扱うと良い教材
- ・ 「SDGs 副教材ポータルサイト」を活用すると、動画やワークシート等の資料がある。

(4) 講師の先生より、2点について指導があった。

- * 知識獲得は、個人でもできる。授業は皆でやらなければ解決できない課題解決についてやるのが良い。

*単元の構想図を考えることは、単元を課題解決型の学習にするためにも必要な作業である。単元のねらいに迫る「単元を貫く課題」を設定するときには、単元指導計画の前に、作成しておく。その際、小学校等で学んだ既習事項を整理しておくこと、良い。

第3回 3月24日(日)

(1) 指導案をもちより、協議した。協議の中で、以下の提案、まとめをした。

①歴史的分野における地図の活用について

- ・例えば、中世史で、「東アジアの変化」を指導する際には、ぜひ活用したい。
- ・前期と後期の倭寇の違いについても、地図を活用するとわかりやすい。

②歴史的分野の目標設定について

- ・例えば、室町時代の場合、「産業の発達」を理解させることで、何がどのように変化していったのかの因果関係に着目することが大切。民衆の成長が、市民革命にも通じるという視点が必要である。
- ・武士といっても、鎌倉時代と室町時代、江戸時代では、とらえ方が違う。教師自身が違和感を持ち、単元計画を立てていく。

③調べ学習について

- ・知的好奇心を刺激する材料をいかに与えられるかが大切。一人では解決できない課題を与える。
- ・月に1回、教科係を集めて、掲示していくのも1つの方法。

(2) 発表報告として、以下の実践報告がされた。

(i) 府中市「ふるさと学習」と関連付けた「地域調査の手法」の指導について

- ・総合的な学習の時間で行った「防災学習」と関連付けた。
- ・「学校周辺はどのような地域か」を目標とし、副読本「郷土府中」を活用しながら、地域防災の視点から地域の課題を地図から発見した。
- ・本単元は、2年次の「身近な地域」へつなげていく。

(ii) 「全国中学高校 Web コンテスト」参加から

- ・有志を集め、3チームが参加。Web ページを作成するコンテスト。
- ・社会科として、「江戸川区の水害について」「北方領土問題とは」の2つのテーマに取り組んだ。
- ・自ら調べ考える力が身に付いた。

(3) 先進事例として、「今なぜ、パフォーマンス評価なのか」について紹介があった。

- ・「パフォーマンス評価」は、知識・技能の活用を含めた思考・判断・表現や態度を統括的・一体的に評価する方法。
- ・「パフォーマンス課題」には、学習したことを活用し、主体的に考え、課題作成のプロセスを示す文脈が入ることが重要である。
- ・「ルーブリック」は、評価の指標となるものである。
- ・単元構成をコンピテンシー育成で考えることが重要である。

(4) 参加者によるグループワークとして、「中部地方」の単元構想図を作成した。

①方法

2つのグループに分かれ、中心概念を各グループごとに設定し、単元を貫く課題をそれぞれ考える。

②発表

<Aグループ>

あ) 中心概念「産業」

中部地方は、東海、北陸、中央高地に分けられる。またそれぞれの地域では、特徴的な産業が栄えている。それは自然環境、歴史的背景、交通網、首都圏との距離などが影響している。そして近年でも北陸新幹線の開業やリニア新幹線の開業予定など、地域は変容している。

い) 単元を貫く課題

「交通網の変化や少子高齢化、情報化、グローバル化が進む現代日本の中で、三つの地域の産業はどのように変化していくだろう。」

う) 着目したい点

- ・ 補助資料を提示し、将来のことを考えさせたい。
- ・ 公民の知識が必要なことについては、若干の懸念がある。

<Bグループ>

あ) 中心概念「他地域との結びつき」

い) 単元を貫く問い

「他地域との結びつきを通して、中部地方はどのように発展しているか」

う) 着目したい点

- ・ 東海地方を通る東海道新幹線、内陸部を通る長野新幹線に続く、北陸新幹線の開業、さらに、延伸が期待される金沢⇔京都間の新幹線に着目する。

③協議、及び講師の先生からの指導・講評

<Aグループについて>

- ・ 3つの地域の産業の違いは、立地条件、歴史的背景によるところが大きい。そのため自然環境に着目していくことが重要である。少子高齢化、情報化を扱うのはやや大きいくくりになるのではないか。
- ・ 「3つの地域の違いは、どこから生まれたのか」という地域的特色を捉えた上で、どのように発展していったのか、交通網の発達を通して考えさせる。
- ・ 地理的分野において、将来のことを考えさせるのは、地域に即して考えさせることが大切である。例えば、産業を経済面で考えていくのではなく、「自然条件」「社会条件」といった「空間」としてとらえていく。
- ・ 例えば、3つの地域の現象から、共通点を見いだす。「少子高齢化」だとしたら、「この地域はどうなるのか」「どうなっていくのか」という発問が、「単元を貫く課題」となるのではないか。『過去』(事実)があって『将来』がある」という発想をもつことが何より重要である。

<Bグループについて>

- ・ 「交通網が発達することで、地域が結びつき、地域が変化していく」という概念である。この概念を使って他の地方でも授業ができるのではないか。

- ・「見方・考え方」を働かせ、単元を積み重ねることで、知識が積み重なっていく。「中国・四国地方」で「他地域との結びつき」を中心概念として扱い、「中部地方」でこの授業を行うのも、1つの方法ではないか。
- ・地形と交通網の相関関係に着目し、「北陸新幹線は今後どのようなルートを通ると、どんな成果と課題があるか」という課題も考えられる。
- ・新学習指導要領では、中心概念が5つとなる。最初は「自然」から始めると良い。単元の順番には工夫が必要である。
- ・たとえば、「中部地方」を「自然環境」でやるとしたら、「自然の差は、3つの地域をどのような違いを与えているか」となる。

【成果と課題】

(1) 成果

- ①指導案やワークシート、定期考査問題を基に実践報告をし、研究協議において、意見交換をすることにより、「明日の授業」に生かす、より実践的な指導法工夫に結びつけることができた。特に、各地区での公開授業や研究授業を引き受ける若手教員が増えてきたことにより、事前の指導案検討や、事後の反省の場にもなり、より高い指導力の向上につながった。日々の教材研究にも深みが出てきている。
- ②第3回の研究会で、「単元を貫く課題」について、グループワークをし、協議をしたことは、1年間の日頃の授業実践のまとめとなり、また新学習指導要領を踏まえた新しい単元構成の提案となった。来年度、自校での実践、成果の報告が期待される。
- ③都中社研研究部員をはじめ、指導教諭等から、毎回「発表報告」「先行事例」を発表してもらうことにより、若手教員が広い視野で教材研究をする重要性を学ぶ場となっている。また、参加した校長、顧問の先生に毎回、複数参加していただくことにより、より専門的なアドバイスをいただくことできている。今後の社会科教育の方向性を知る機会となっている。
- ④都中社研の事業のほか、各種の研修会を紹介することにより、多摩地区の若手教員の研修意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ①若手教員の指導力向上を図るため、さらに共通の課題を提示し、継続して研究を進め、「公民としての資質・能力の育成」ができる指導法の工夫・改善を図る必要がある。